

## 【小学生の部】鹿児島県知事表彰

### 西日本豪雨を通して

曾於市立財部小学校 6年 <sup>のま</sup>野間 <sup>れのん</sup>麗音

「西日本は、豪雨です。」

テレビの中で、レインコートを着たり Reporterの方が、中継していた。Reporterの方のもっている傘には、大粒の雨が打ち付け、レインコートは、ぐしゃぐしゃになっていた。後ろに見える風景は、日本ではないようだった。木は右に左に大きくしなり、川の水があふれて、道路はまるで池のようになっていた。

「こわい。」

私はとっさに窓の外を見た。朝からずっと雨が降っている。家の近くの川は、大丈夫だろうか。一気に不安になった。

今年の夏、西日本を中心に、全国的に広い範囲で集中豪雨が発生した。多くの地域で、警報が出され、河川のはんらんやしん水ひ害、土砂災害が起こった。死者は二百人以上だという。夏休みに入っても、ニュースでは、被災地の様子がよく伝えられていた。「どうしていいのかわかりません。」

家族をなくし、家をなくし、泣き崩れる被災者の方が、そう話していた。

自然災害は、いつ起こるか分からない。今の私たちに、できることはないのだろうか。まず、「もしも」の時に備えて、避難の準備をしておくこと。非常食や懐中電灯、薬など、生活に必要な最低限の物を、準備しておくことは大切だ。次に、家族で話をしておくこと。きんきゅうの時の動きを、きちんと話して、決めておくべきだと思う。れんらくの手段や集合場所などを、あらかじめ決めておくことで、家族がばらばらにならずにすむと思う。そして、普段から、自然災害を意識して生活すること。私の家の周りには、川や山がある。雨が降ったら、土砂崩れが起こりそうな場所はたくさんある。山が崩れるかもしれない。川の水があふれるかもしれない。「そうなるかもしれないこと」を予測して、日々を過ごすことは、自分の命を守ることにつながる。

私は、今、普通に生活をしている。学校に行って、友達と一緒に勉強や運動をしている。家で、家族そろって、テレビを見たり、ご飯を食べたりしている。この「当たり前」に、私はなれていたような気がする。しかし、それは決して「当たり前」のことではなかった。毎日のように、テレビに映し出される、被災地の様子。暑い日差しの中で、土砂をほりおこしたり、がれきを片付けたりしている被災者の方たち。テレビの外側の自分は、これまでと変わらず、「当たり前」の生活を、「当たり前」にしている。とても不思議な感じがした。そして、とても悲しかった。「当たり前」は、「当たり前」ではないんだ。そう思った。今回の西日本豪雨を通して、自分の生活を振り返ることができた。学校や家があること。勉強をしたり、遊んだりすること。着る物や食べる物があること。その「幸せ」を感じながら、日々を生きていきたい。